

植物中的钢铁

北基行 記

紹興市 蘭亭入口 ほとんど竹製の家屋

植物中の鋼鉄

鉄は固い、これはあたりまえのこと、知らない人はいないだろう。でも、鉄のように硬い植物があることは知らないだろう？

英雄を褒めたたえる気の利いた言葉に、“鋼鉄の英雄”がある。この言葉は、人心をゆさぶる力を秘めている。鋼鉄は確かに何回も打ち鍛えられて出来上がる。この過程はよく似ているから否定しないが、これ故に鋼鉄が唯一の硬い物と決めるわけにはいかない。世には、鋼鉄より硬い物質は存在する。例えばある種のプラスチックは、鋼鉄より硬いことが知られている。将来、先進科学が発達すれば、鋼鉄の代わりプラスチックが大量に使用されるようになるだろう。しかし、これは未来のことで、しばらく措くとして。

ここで鋼鉄なみの植物について述べよう。それは鋼鉄と同様の硬度と特徴があり、用途からすると鋼鉄よりかなり広い。

そんなものあるかな？ 砂漠の梭梭樹だという人があるだろう。梭梭樹は硬くて斧でも断ち切ることができないそうだ。また、別の樹木を挙げるかもしれない。世の中



竹背負い籠 竹手つき籠

にはまだまだ硬い樹木がいろいろあって、機械の部品に組み入れられているものもある。それらではなく、私が云いたいのは、竹である。

竹の用途は驚くほど広く、これほど韌性に富む材料はほかに見当たらない。南方では、竹製の家屋、家具、船、車両、梯子、橋梁等、身近にいくらでもあり、珍しいものではない。最近では、近代化の大建築の鉄筋に代わりに使われ始めた。竹で菅笠、下駄、ベッド、紙が作られ、最後は燃料になることをご存じの通り、これを疑う人はいない。竹の生命については、古墳から出土する竹製の器物が、地中に数千年埋もれても朽ちないことを証明している。

昔の人は竹、松、梅がもつ貞堅不屈の性格を誉めたたえ、この三つを“歳寒三友”と呼んだ。世間では、三つのうち松が屈強を、梅が孤高、竹が清高を代表すると云う。呼ぶ順序は松、竹、梅が定番であるが、それを変更して、竹を歳寒三友の先頭に置いては如何であろうか。その理由は、竹には上で述べた特徴のほかに、松にはない優れた性質があるからだ。例えば、松は大きな図体を出しやばりであるが、竹は優しく人になじむ。家の裏に少しの土地があれば、竹はやすやす育ち、一年中青青として人と交わる。竹は弱そうに見えて強く、貞節を通して曲げない点がうれしいが、特に人を感動させるのは、年々たけのこを産み、食卓を飾ってくれることだ。そのうえ、身の回りの器具と為って、粉身碎骨して人に努めてくれる。見た所、誰にも出来ないことを、当たり前のように黙々とやってくれる。



竹林の小道

こんなわけで、我々は竹を賛美して、けなしはしない。画家や詩人に竹を主題とした作品が多いのも、理解できる。そのなかで、竹を賛美した最もふるい詩は、以下に紹介するとおりだ。まず『詩経』の『衛風』の中に『淇奥篇』がある。“彼の淇奥（ぎいく）を瞻（み）れば、緑竹 猗猗（いい）たり。彼の淇奥を瞻れば、緑竹 青青たり。”

朱熹などの注釈では、猗猗は“美盛の貌”とあり、青青は“堅剛茂密の貌”とある。これらの句は、いずれも淇水兩岸に茂る竹の姿を賛美したものだ。ここに列挙をひかえるが、『詩経』には竹を詠んだ句が多い。

竹の生育は南方に限らず、北方でもよく育つ。すこし手をかけてやれば、北方の気候にうまく適応して繁茂増殖するだろう。工業や建築原材料の来源として大きく期待される。

注釈：

瞻彼淇奥、緑竹猗猗——『詩経』の衛風にある『淇奥』の一章九句の頭の二句。

“瞻彼淇奥、緑竹青青”は二章目の頭部二句である。白川 静氏は「瞻彼」のように説明する：生い茂る草木の発想は祝頌の詩の発想となる。特に「瞻彼～」は祝い詞。わが国の（万葉）でいえば「見れど飽かぬ～」[～見ゆ]の表現にあた

【掲載当時の時代考証と秘められたメッセージ】

『植物中の鋼鉄』ひとそえ

食糧不足の代替品として粟や粟を取り上げた前号に続き、今回は鋼鉄に代わる優れたものとして自然界の竹が挙げられています。

オストロフスキーの『鋼鉄はいかに鍛えられたか』の時代に遡るまでもなく、社会主義革命の象徴としての鋼鉄があり、中国でも筋肉質で太い眉毛の製鉄労働者が描かれたポスターや切手をよく見かけました。そこへ作者の鄧拓が竹の柔軟性や多様性を愛でる一文を書いたのは、大躍進後の氷河期に「歳寒三友」としての竹の効用と節操を伝えたかっただけなのでしょう。竹が何を象徴するかを読み取るのが、この一文の肝であることは感じられますが、鋼鉄やプラスチックのように単純ではなく、真空唐竹割りのような読み解きは出来そうにありません。

1980年から1990年までの広州交易会に連続して参加していた頃は建設用の足場に竹が用いられていたと記憶しています。当然、鋼鉄の供給に限界がある反面、竹は潤沢で安価だったのでしょう。ビルの建築現場を竹の骨組みが囲う光景を見て、日本の友人の皆さんが一緒に驚きの声を上げていたのを思い出します。「気候毛沢東主義」との言葉を編み出した（『人新世の「資本論」』115頁）斎藤幸平さんなら、どんな「ひとそえ」コメントをしてしてくれるでしょうか？



香港 2012年 竹の足場

井上邦久

植物中の钢铁 原文

一般人只知道钢铁是最坚硬的一种物质，然而，谁会想起植物中也有同钢铁一样坚硬的东西呢？

当我们称赞一个英雄的时候，用了“钢铁的英雄”这样的高尚的词汇，这是多么激动人心的赞词呀！”的确，钢铁是经过千锤百炼而后形成的，它是值得珍视的。但是，我们却不可因此而认为只有钢铁是唯一的最坚硬的东西了。其实，世界上还有比钢铁更坚硬的东西。比如塑料中有的就比钢铁还要坚硬。将来尖端科学发展的结果，人们总有一天要大量用塑料来代替钢铁。不过，这是后话，现在暂且不谈它。

这里只想谈一谈植物中的钢铁。它具有与钢铁同样的许多优点。而用处还比钢铁更要多些。

这是什么东西呢？也许有人猜测，这是说的沙漠里的梭梭树，因为它的树干据说连斧头也砍不断；也许有人猜测是其他的什么树木，因为世上还有一些树木的确坚硬得很，有的还可以做机器的零件。但是，我说的都不是这些，而是指的竹子。

竹子的用途极广，它那坚韧顽强的特性尤为难得。我们在南方到处可以看到竹子的房屋、竹子的家具、竹子的船只、竹子的车辆、竹子的绳索、竹子的桥梁等等，近几年有些现代化的大建筑也居然用竹子代替了钢筋。至于竹子可以做斗笠、做鞋、做床铺、做纸以至于当柴烧，更不用说了。这一切事实都是千真万确的，丝毫没有可以引起怀疑的地方。同时，我们还从古墓中挖出了竹制的器物，更加证明竹子即便埋在土里几千年也不会腐朽。

古人把竹子和松树、梅花合称为“岁寒三友”，称颂它们坚贞不屈的性格。按照普通的理解，这三者之中，松树最为倔强，梅花比较孤傲，竹子却很清高。这三者排列的次序是：松、竹、梅，似乎成了定局。但是，我们现在更有理由把竹子列为岁寒三友中的第一名。这是有充足理由的。除了上面说的以外，竹子还有许多比松树更突出的优点。比如说，竹子不象松树那样爱摆大架子，而是平易近人，只要房前屋后有一点空隙，它都可以安之若素，并且一年到头陪伴你而从不变色。它虚心劲节，坚贞不屈。特别使人感动的是，竹子年年生笋给人吃，供给你坐卧行动的各种工具，粉身碎骨地为人们服务。这岂不是以最平凡的姿态出现，而做了最不平凡的事情吗？

正因为这样，人们从来对于竹子只有赞美，并无贬抑。历来无数的画家都画竹子，无数的诗人都咏竹子。这完全是理所应当的。如果要引证古来许多著名的画家和诗人关于竹子的作品，那是举不胜举的。但是，这里应该提到最早赞美竹子的诗文。首先是《诗经》《卫风》中的《淇奥篇》，它写道：“瞻彼淇奥，绿竹猗猗；瞻彼淇奥，绿竹青青。”据朱熹等人的注释，猗猗是“美盛之貌”，青青是“坚刚茂密之貌”。这些字眼，都是用来称赞当时在淇水岸旁生长的竹子的。《诗经》中还有其他称赞竹子的诗句，也不必一一列举了。

竹子的生长并不限于南方，在北方同样可以生长，如果稍加培植，它将更容易适应北方的气候，生长将更茂盛，这将大大增加我们的工业和建筑业的原材料来源。